

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772401952		
法人名	有限会社 ハル		
事業所名	グループホームはる		
所在地	枚方市船橋本町2丁目85番地の7		
自己評価作成日	平成30年11月20日	評価結果市町村受理日	平成31年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGBビル大阪 4階		
訪問調査日	平成31年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護する側される側スタッフと入居者の垣根をとり楽しく安全で過ごして頂けるよう努めている。又個々の残っている能力を支援し利用者の心の声を感じ又寄り添い日々安心で穏やかに過ごして頂けるよう努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して16年弱が経過し、市内でも歴史のある経験を積んだホームである。高齢者につが発症すると、他人はおるか家族に対して心を開かず、自分の思いにかたくなになり、心きがちであるが、このホームでは利用者に優しく接し、職員も制服でなく普段の私服を着てケアをして心のバリアを取り除くという施設の理念を実践している。代表者は、この地区会長を長く務め、職員や地域の信頼も厚い。自然公園に隣接していて、職員と利用者全員が四季の移ろいを感じている。1ユニットで利用者が少ない利点を活かし、食事については利用よく把握し、配食業者は一切入れず、すべてホームで職員と利用者が力を合わせて準備を楽しむ原点がこの施設にはある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
			1. ほぼ全ての利用者が				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「こころのバリアフリー」をあげ認知症の症状を個々にとらえ職員は常に理念を意識し実践になっている	開設以来、当ホームの理念として「こころのバリアフリー」と定め、職員一同その理念に沿ってケアに励んでいる。職員は制服ではなく私服を着て家庭的な雰囲気がある。利用者のバリアフリーについては、運営推進会議や普段のお付き合いで地域にも浸透させる努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今のGH入居者の現状から日常的な交流はなかなか取れていない	代表者が、この地区の初代自治会長を長く務めたこともあり、地域住民との関係は密である。利用者のADLも低下し交流は困難になりつつあるが、それでも自治会の運動会や餅つき大会を見学したりして楽しんでいる。歌体操のボランティアや中学生の職場体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は自治会に入っており地域活動に出来るだけ参加している自治会長の交流があり理解を努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回必ず行い情報報告し会長や地域包括の方に助言して頂きサービス向上に努めている	開催日を奇数月の第1金曜日と定め、行政からは地域包括支援センター、地域からは自治会長、民生委員そして家族代表が出席している。ホームから利用者の様子やイベントを紹介し、出席者から意見や提案を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括職員に情報提供を頂きながら連絡を密にとっている	ケア困難例や分り難い事例では、市の高齢福祉指導課や生活福祉課、地域包括支援センターと連携をとり解決を画っている。毎年4月には市の集団指導に出席し、情報を得て運営の改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についてのマニュアルを作り家族の理解を求め書類にサイン捺印を貰っている安全確保のため理解を求めている	昨年の4月から関係する制度が厳しくなったのは承知されており、身体拘束の弊害についての研修の強化や職員同士身体拘束の有無について絶えず注意している。睡眠中よくベッドから落ちる利用者がいて、やむを得ず4点柵をしていたが、3点柵に改善したケースがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の事故があった時はミーティングをとり職員のあってはならないことなど徹底に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性がある場合学ぶ機会をもち支援する		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に説明を行い理解不安不信感を持ってもらわないように努力している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に情報報告し要望ご意見があれば対処するように努めている	利用者には、常に寄り添って心のバリアを解きほぐす様にして意向や提案を聞いている。介護相談員や家族から聞き出すこともある。家族からは、来訪時や毎月発行している「グループホームはるだより」を読んで、意見や要望を言ってくるケースもあり、都度検討し対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りなどミーティングを取っている	常日頃から何でも意見や提案を相談し易い家族的な雰囲気作りをしている。フロアミーティングに代表者や管理者が出席し、利用者のケアの相談や色々な意見や提案を聞いている。代表者による個別ミーティングも設けている。介護資格(介護福祉士他)取得を目指す職員に対しては、シフト面で支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は把握各自が向上心を持って働けるよう職場環境整えやりがいのある職場にするよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格習得のも推進を勧める研修は出来るだけ参加し介護の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ連絡協議会などには積極的に参加している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化にによる不安など出来る限り寄り添い馴染みの関係が出来るように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望等を聞き何でも話会えるような雰囲気作りをし関係を持てるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様の要望を聞きサービス利用の順位を考え支援を相談しながら対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護ではなく本人の気持ちになって支援出来るように関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一方的な介護ではなくご本人と家族の絆を大切にし連絡を取り合い共にご本心を支えていく関係を築いる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしてきた馴染みの人や場所など関係が途切れないよう家族等などに協力を得て支援に努めている	利用者によって差はあるが、友人・知人(自宅近所の方、会社仲間、同窓生等)はたまに訪問してくれているので、連れだって外出する等楽しい時間を共有してもらっている。家族によっては、親戚の人は断って欲しいという要望もあるので、初めての来訪者には一応家族に確認する等慎重を期している。馴染みの場所としては、理・美容院があり、家族が同行している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとり孤立せず利用者との関係を把握し協力を得て支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性を大切にしながら支援相談に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりへの希望や志向を把握し本人本位で検討している	利用者の日常の思いや意向を把握するため、その方の人生歴や生活環境、趣味・嗜好等を職員全員で共有し、それらを参考にして入居後の希望や意向を聞き出し、ケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方を把握し心のケアを大事にし穏やかに過ごせるよう努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族や必要な関係者と話し合い介護計画をもとに必要なに応じて話し合いいけんを聞いて計画を作成している	毎月計画作成担当者を中心にサービス担当者会議を開いて、最初のアセスメントシートに比べて、利用者の現状の変化を個別記録や申し送り事項等で確認し、ケアプランの維持あるいは変更を検討している。介護相談員や家族、かかりつけ医の意見も聞いている。モニタリングは毎月、ケアプランの見直しは原則3ヶ月ごとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子など個別記録に記入し情報を共有しながら実践に反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本心の状況きずいた変化など家族に伝えその時々生まれたニーズに対応しサービスを提供に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の心身の力を発揮できる支援しながら豊かに穏やかに過ごせるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	受診の必要性を家族に伝え又同行の協力を求めてかかりつけ医と連絡をとりあいながら適切な医療を受けれるよう支援している	入居者は、協力病院系列の医院の在宅医療部の医師をかかりつけ医として毎月2回の往診を受けている。歯科は、毎週火曜日に訪問歯科の往診を受けている。歯科衛生士が口腔ケアの指導もしている。他科の診察は協力病院の受診を家族に代わって施設長が支援している。 看護師は不定期であるが基本週1回4時間入居者の健康管理をしている	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変があった時家族に連絡をとり在宅医療に指示を仰ぎ適切な受診が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院退院の際家族と連絡をとり情報の交換や相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の場合家族と相談しながら今後の方針を共有し医師の指示を元に支援に取り組んでいる	入所契約時に看取りの指針を利用者家族に説明している。重度化した場合や終末期の場合は家族とかかりつけ医の医師と施設側の三者が話し合いをし三者合意の上、以後の方針を決定している。看護師の24時間のオンコール体制はできている。 開設以来、1件の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生等の訓練は特に行っていない今後訓練を行い実践を身に付ける必要がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている	夜間想定を含めた消防訓練を年2回実施している。近隣には参加を呼び掛けているが、隣や向いは縫製工場で住民が少ないので参加はない。 備蓄品は、食料として米やみそなど2週間ぐらい充分備えている。	近隣の自治会等を通じて地域に災害時の協力をお願いを継続して発信されることを望む。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し自尊心を傷つけないよう言葉かけ注意し馴染み関係が出来るように対応している	トイレ介助や入浴時のプライバシーを守るためにスクリーンを設置している。職員は介護経験が豊富で在職が長いので経験による介護技術を職員同士で互いに研鑽し、言葉遣いなども注意し合っている。	長く勤務している職員が多いが、出来れば年1回でも振り返りの研修の機会を設けることを期待する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の行動や表情で何を訴えているかを感じ対応している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全安否を重視し一人ひとりのペースを大切にし希望に沿って支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室がありその人にならった髪型や服装を支援している今は訪問美容室を利用している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	モヤシの根取りや引き膳の盆拭きなどしてもらっているが見守りが必要である	朝昼夕の食事は、職員が食材を近くのスーパーに買出しに行き全て手作りをしている。買出しには入居者が一緒に行くこともある。入居者のなかには調理準備の手伝いや後片付けをする人もいる。職員も一緒に食事をし、また食器はほとんど陶器を使用し、家庭の食事の風景が見られる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給補給や食事量などは記録を取っている 体重測定は月1回行い管理している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行い夕食後入れ歯を除菌のためつけおきし管理している ご本人が出来ない場合は介助している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理で必要な人には時間誘導をしている	1階の入居者の排泄パターンは排泄チェック表で把握しているので、したいと思われる頃を見計らって誘導している。2階の入居者は自立をしている。 7名がリハパンを、1名がオムツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には医師の指示を仰ぎ服薬を調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人別に週2回入浴している曜日や時間など希望に添えないのが現状である	入浴は週2回を基本とし、火・水・土・日曜日の午前中に各4名が入浴を楽しんでいる。入浴拒否の人もあるがうまく誘導したり、日を替えたりして対応している。浴槽に入れられない人にはシャワー浴用の設備がある。 菖蒲湯やゆず湯の季節の湯も楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて休息したり安心して穏やかに休息が取れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬ファイルを管理し服薬変更は朝のミーティングで伝え送りノートに記載している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	引き膳のお盆拭きやテーブル拭きなどしてもらったり塗り絵や壁飾りの手作りや力を活かした役割楽しみ事など気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	デイケアを利用できる人は週3回行っている。裏に公園があり環境に恵まれているので天気の良い日は外気浴や散歩に出ている	施設の裏には自然公園があり、気候のよい時期には日常的に散歩をしている。春には鶯の鳴き声や花見を楽しみ、秋にはこの公園で運動会を開催し、パン食い競争や玉入れなどを楽しんでいる。 また、毎年外出レクとして家族と共に郊外の農園料理を食べに行ったり、遊園地に菊人形を見に行ったこともある。お誕生日には外出をしている人もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は所持できないが外出や買い物には職員が確認し支払えるように支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	届いた手紙などはご本人に渡して書ける人は年賀状を書いてもらい支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のお楽しみの予定を掲示しその月の塗り絵など貼り付け季節感を出し工夫している	1階の居間には卓球台を改造した大きなテーブルがあり、入居者は全員が一つの食卓で食事をしている。玄関には女の子を描いた春を感じる明るい大きな絵や貼り絵や花などが飾られていて和やかな家庭の雰囲気がある。2階の和室は家族との面会の場となっている。この和室で入居者と初釜をかけお茶を楽しむこともできる	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では利用者同士TV見たり談話したりして過ごしている玄関にはベンチに腰かけ自由に過ごしてもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや写真など飾りなど穏やかに過ごせるよう工夫し居室の床は畳にしている	居室は全室が畳の部屋で、使い慣れた家具や仏壇を持ち込んで自宅の延長のように感じることができる。居室入り口には、各自の名前を大きく書いた表札が掛けてあり、入居者に自室が分かり易いように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お手拭きのタオルたたみやモヤシの根取りなど職員と一緒にやっている		